

## 【H22-事例4】循環型社会をめざした廃棄物の削減と環境教育への取組みについて

事業場名	東芝ライテック株式会社 本社
事業内容	照明器具管球部品等照明関連製品の研究、開発、設計、製造
事業規模	従業員数 868 名
廃棄物データ	産業廃棄物 発生量計：320 t（平成 21 年度実績） 特別管理産業廃棄物 発生量計：131 t（平成 21 年度実績）

### 1 取組の概要

東芝ライテック株式会社は、循環型社会の構築をめざす企業として、自主的・自発的な環境保全への取組みを実施しています。「かけがえのない地球環境」を、健全な状態で次世代に引き継ぐことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、環境への取組みを、経営の最重要課題の一つとして位置づけ、経済と調和させた環境活動の推進をめざしています。

企業として、環境調和型商品(LED照明等)の開発や生産活動での廃棄物削減の推進などに積極的に取組むとともに、地域社会の一員としても、環境教育や地域清掃に貢献しています。

### 2 取組の内容

#### (1) 廃棄物削減計画に基づく減量化への推移

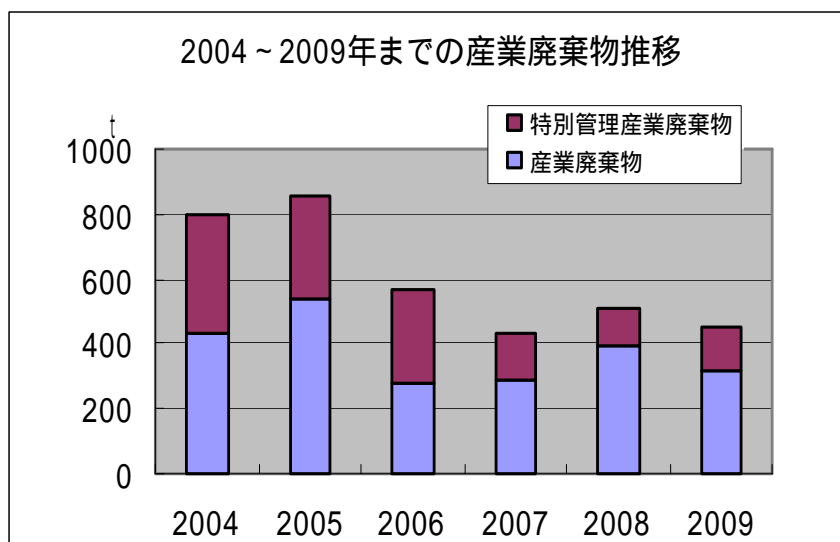
廃棄物排出量削減をめざし、社内各部課での削減計画作成と排出量管理を行っています。また、分別の徹底による削減を図るため、環境担当が中心となり社内での環境教育を実施しています。社員一人一人へ分別意識を徹底させるとともに、各課廃棄物担当者によるパトロールを定期的実施することで、廃棄物の適正処理への確認を図り廃棄物の削減に努めています。

平成22年 廃棄物削減計画

施策	担当	スケジュール											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 分別の徹底による削減 1) 環境教育(階層別) 2) 全員教育 3) 廃棄物担当者によるパトロール(1回/期) 4) 廃棄物立会い確認	事務局												
	各課												
	各課												
	各課												
2. 排出量の抑制 1) 排出計画・管理 2) 削減計画作成と推進	各課												
	各課												
3. 再資源化の推進(ゼロエミッションの維持) 1) 分別の徹底による再資源化率の向上 0.4%以下 2) 廃棄物処分先確認 * 処分先契約前確認 * 定期確認1回/年	各課												
	事務局												
4. ボランティア・プランの推進	事務局												
5. 廃棄物処理費用削減 有償処理の拡大	事務局												

また、各職場では、コピー機の初期両面印刷設定や廃棄物の計量管理を通じて、できるだけゴミを出さないよう地道な工夫を実施してきました。

この結果、製造設備の改善と相俟って、2007年以降の産業廃棄物の総発生量は、概ね年間500トンを下回るようになりました。



## (2) 再資源化の推進

照明製品の製造に伴って発生する主な廃棄物は、ガラス、金属、プラスチックと付帯設備から発生する汚泥などがあります。発生源対策とともにリサイクル化の徹底を図って、廃棄物の削減を推進しています。

廃棄物の排出量の削減の柱は、ゴミ分別の徹底にあります。東芝ライテック株式会社では、28種類のゴミ分別を実施し、廃棄物の再資源化をめざしています。

特に、作業場を設けて非鉄金属の分別分解を徹底的に行い、有価物として売却することに努め、再資源化を積極的に進めています。

1	新聞紙	1 1	ガラス屑	2 1	残土
2	雑誌	1 2	木屑	2 2	廃家電製品
3	ボール紙	1 3	マンガン・アルカリ乾電池	2 3	安定器
4	ミックスパーパ	1 4	リチウム・ニカド乾電池	2 4	空きピン
5	可燃物	1 5	鉄屑	2 5	廃薬品容器
6	吸殻・茶殻	1 6	空き缶	2 6	基盤
7	ダンボール	1 7	廃蛍光ランプ	2 7	廃パソコン
8	廃プラスチック	1 8	半田屑	2 8	非鉄金属
9	油ボロ	1 9	廃油		
1 0	原料用プラスチック	2 0	ガラス屑(製品不良)		

### (3) 地域コミュニケーション

環境保全に対する企業の社会的責任を果たすために、環境に配慮した商品の生産や普及に努めるだけでなく、積極的に地域の一員としての活動に取り組んでいます。

周辺地域の小中学校にとどまらず、日本各地の生徒を対象に環境教室を開催し、地球温暖化防止や廃棄物リサイクルの大切さを実体験できる活動を実施しています。



実施時期	学校名	主な学習内容
2009年5月	岐阜県多治見小学校	あかりについて
2009年12月	新潟市立藤見中学校	地球温暖化とLED発展
2009年12月	日本工業大学	LED照明の発展
2009年12月	横須賀市立船越小学校5年生	地球温暖化、実験等
2010年1月	横須賀市立田浦小学校5年生	地球温暖化、実験等
2010年2月	横須賀市立船越小学校6年生	地球温暖化、LEDライト作製
2010年5月	岐阜県多治見市立中学校	あかりについて
2010年7月	千葉県立千葉中学校	LED照明について

また、事業場周辺の清掃を行いきれいな街づくりに貢献しています。この活動は、始めてから15年目になります。年に1~2回、社員100名程度の参加により実施しており、従業員の環境意識とボランティア精神の向上につながっています。

### 3 問題の解決に苦労した点

1996年に環境認証を取得する際に、廃棄物に対する従業員のリサイクル意識を高めることに苦労しました。その当時まだ廃棄物分別については各職場に十分に認識されておらず、細かな分類設定に各職場は困惑しておりました。分別写真例を作成し各職場の廃棄物保管場所に掲示するなど、地道な活動を一步一步進めて解決を図りました。

また、非鉄金属を少しでも高く売却するために不要になった鉄屑に組み込まれている非鉄金属を取外すことは手間がかかる作業ですが、資源を有効利用する観点から、分別当初

から積極的に取り組んでいます。当初は慣れない点もあり、時間が掛かっておりましたが、専用工具を使用することなどの工夫を重ねた結果、現在ではかなりの実績を上げられるようになりました。

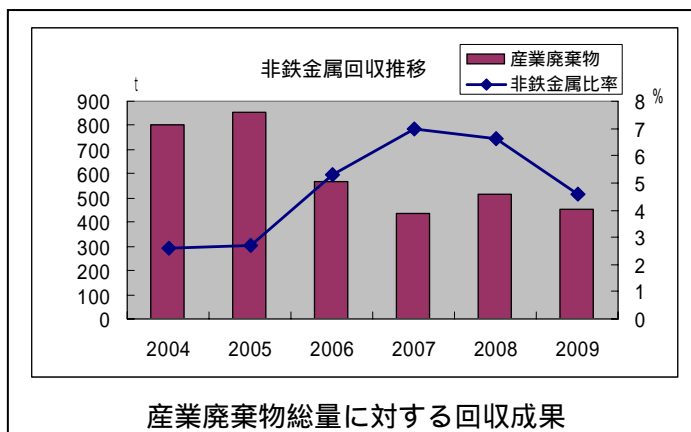
#### 4 取組みの成果

非鉄金属の回収成果として、廃棄物に対する非鉄金属回収比率を右記グラフに表しました。

2006年度以前は、鉄屑に付いていた非鉄金属は分解していなかったため、非鉄金属比率は3%と低かったですが、2007年度以降は分解を進め、

細かく分類した結果、2007年度の非鉄金属比率は、7%を達成しました。

また、東芝グループでは、地域社会に貢献したグループ会社を選考し毎年表彰を行なっています。2009年度の社会貢献活動では、世界各地の東芝グループ 223社、1290件の応募の中から、東芝ライテック株式会社の「子供あかり学習」と題した環境教室が高く評価され、第6回社会貢献賞を受賞しました。



#### 5 今後の取組みについて

環境保全に対する企業の果たすべき役割や社会的責任が求められるなか、自主的な取組みをより積極的に進めていきます。

東芝ライテック株式会社は、循環型社会構築に求められている3Rへの対応として、廃棄物の発生抑制とともに、回収資源の有効利用に向けた取組みを推進しています。廃棄物の発生抑制では、商品の小型化、長寿命化、分解性の向上、リニューアル化を、使用済み商品では、リサイクルや回収資源再利用に向けた技術開発を推し進めていきます。

また、従業員一人ひとりの環境マインドの醸成とともに、環境保全への実践活動を今後とも展開していきます。

東芝グループのモットーである「地球内企業」として世界で信頼される企業であり続けるために、また、これからも地域等で愛される企業としても、地道な社会貢献活動に積極的に取り組んでいきます。